



大鍋にいっぱい用意できました

もたちは、1年生から6年生までの縦割り班になり、この会のために手作りしたゲームや遊び道具で遊び始めま

福浦小学校では、田畑の作物を育てて収穫し、調理してみんなで食べるまでの一貫した食育活動が行われています。さらに特筆すべきは、お母さんやおばあちゃんたちが、「芋煮会」などの学校行事を通して地域の伝統的な食文化を子どもたちに伝える役割を積極的に担っていることです。

南相馬市立福浦小学校は、福島県の浜通りの北部に位置し、太平洋に面した旧小高町にあります。開校は1873年の歴史ある小学校で、現在は1学年1学級、全校児童105人の小規模校です。南相馬市小高区は、勇壮な「相馬野馬追」で全国にも知られています。

さて、校庭ではブルーシートが敷かれ、その脇には長机が並び、芋煮の大鍋がカセットコンロの上にセットされました。それぞれの鍋には保護者のお母さんたちが付いて、煮え具合や火加減を調整してくれています。

福浦小学校では、田畑の作物を育てて収穫し、調理してみんなで食べるまでの一貫した食育活動が行われています。さらに特筆すべきは、お母さんやおばあちゃんたちが、「芋煮会」などの学校行事を通して地域の伝統的な食文化を子どもたちに伝える役割を積極的に担っていることです。



肝っ玉かあさんのような安齋郁子(あんざいいくこ)校長先生



## 地域ぐるみ世代を越えた食の“楽”校

福島県南相馬市立福浦小学校

元気な食育をささえる  
さまざまな取り組みを  
レポート!

7

子どもたちはもちろんのこと、先生、保護者や祖父母、地域の人々が知恵と力を出し合い、田畑の作物で“食農”と“食文化”を体験する取り組みがあると聞き、福島県南相馬市立福浦小学校を訪ねました。



もらってうれしい賞状

たで賞」など、おもしろ賞もいろいろと表彰されました。



ずしりと重い、巨大なサツマイモ

さあ、はじまりは「サツマイモ・コンテスト」です。ずしりと大きなイモやおもしろい形のイモが、校庭に置かれたテーブルにずらりと並んでいます。10月末(2010年)に芋掘りした見事なサツマイモが、安齋校長先生から表彰されています。「重いサツマイモ賞」の優勝は、6年生が掘った1.82kgの巨大なイモ。ほかにもポパイの力こぶのような「筋肉に似てたで賞」、にんにくのかたまりそっくりな「にんにくに似てたで賞」など、おもしろ賞もいろいろと表彰されました。

### 秋の「芋煮会」

秋晴れの一日、大きく広がる青空の下、色づき始めた木々が校庭を囲んでいます。福浦小学校の子どもたちにとって、今日は楽しい「芋煮会」の日。広い校庭には子どもたち、先生、保護者が大勢集まりました。

今日みんなで食べる芋煮の鍋は、5・6年生が家庭科室で保護者のお母さんやおばあちゃんと一緒に準備したもの。収穫したサツマイモを中心に、そのほかにも豊富な種類の野菜がどっさり入っています。

サツマイモ、ジャガイモ、里芋、白菜、大根、椎茸、ネギ、人参、しめじ、こんにゃく、豚肉。福浦地区産または福島県産の食材ばかりです。そのほとんどが子どもたちの家庭や近隣農家からの差し入れ野菜。味付けの味噌も大豆から育てて作ったこだわりの味噌です。

都会ではお目にかかれない大きな白菜を小気味よくサクサク切ったり、それぞれの鍋に各食材を均等に取分けたりと、5・6年生はお母さんやおばあちゃんの指導を受けながら、テキパキと準備します。



手早く新鮮な野菜を調理

す。輪投げあり、ボーリングゲームあり、ボール遊びあり。校庭で無邪気に遊んでいる子どもたちの中には、ずいぶん小さな子たちも。そう、今日の「芋煮会」には、同じ敷地内にある福浦幼稚園の園児たちも色とりどりのスモックを着て参加。大きい子も小さい子もみんな仲良く、楽しそうに遊んでいます。子どもたちはさりげなく園児のめんどろをみたり、遊ぶのを手伝ったり。まるで本当の兄弟のような仲むつまじさです。

安齋校長先生のお話によると、「福浦小学校の子どもたちは、隣の福浦幼稚園から上がって来る子が多いので、計9年間も一緒にいることになりました。そのせいか兄弟のように仲がいいですね。また、家庭は兼業農家または専業農家がほとんどで、99%といえるくらい3世代同居。両親が外で働き、祖父母が畑仕事と子どものめんどろをみている家庭が多いです」とのことです。



ペットボトルや段ボールで作ったボーリングゲーム

### 前年度までの体験活動の一覧

(米作り以外)

#### ●食農体験

- 4月〜畑を耕し農作業の準備、野菜の苗作り
- ナス、カボチャ、ジャガイモ、里芋などの植え付け
- 5月〜サツマイモ、ジャガイモ、里芋の植え付け
- 6月〜キュウリ、大豆の植え付け
- 7月〜ナス、キュウリ収穫
- 8月〜ナス、ジャガイモ収穫



こんなにたくさんキュウリがとれた



みんなで一生懸命植える

### 食の“楽”校は食農と食文化の二本柱

続けて安齋校長先生に、福浦小学校のこれまでの食育活動について伺うと、たくさん



◀焼きいもは後のお楽しみ

いますが、福浦小学校は地域の方や保護者、農協などの「食育」応援団に恵まれていました。「たまたまなんです」が、校長、PTA会長、幼稚園の園長が3人も女性なんです。それでもなかなか仲良くタッグを組ませてもらってません」続けて、「福浦小学校では、食育関係の学校行事が多いのですが、そのつど、保護者をはじめまわりの方々に協力いただき、「食農」とも「食文化」を子どもたちに体験させることが大切だと考えます」作物を育てて食べるということは、大地の恵みと命、料理を教えてくれる人に感謝の気持ちを持



頼りになるPTA会長・後藤素子(ごとうもとこ)さん

取材ノート

芋煮とおにぎりの昼食

今日の昼食は、もちろん屋外でいただく芋煮です。たくさんの野菜が入ったアツアツの芋煮を私たちもご馳走になりました。イモや人参の自然の甘みとそれぞれの野菜本来の味わいがたっぷり。やさしい味噌仕立ての汁に、郷土とおふくろの味を感じるひと椀でした。一緒にいただいた新米のつやつやおにぎりは、安齋校長先生とPTAの役員さんたちが保護者や地域の方の昼食用にと朝から百個以上も握ってくれたもの。アツアツの芋煮と炊きたてのごはんでにぎったおにぎり、ごちそうさまでした。帰りの車中で食べてとお土産にいただいたおにぎり、安齋校長先生の言うとおり冷めても美味しかったです。



野菜たっぷりの、温かい芋煮

福浦小学校に励ましの手紙を送ろう!

この取材は2010年11月5日に行われました。2011年3月11日に東日本大震災が発生、福浦小学校のある南相馬市は海岸線からおよそ2キロの範囲が津波によって壊滅的被害を受けました。福浦小学校は津波の被害を免れ、また子どもたちの無事も確認されています。しかし現在は、福島第一原子力発電所の事故により、警戒区域となり避難を余儀なくされています。このため地域住民や学校関係者は、厳しい避難所生活を送っています。しかし一日も早い復興に向け、希望を持って日夜奮闘されていることと思います。うれしい情報としては4月22日より、福浦小学校は同じ南相馬市にある八沢小学校に間借りする形で授業が再開されました。読者の皆さま、励ましの手紙を書いて福浦小学校の関係者の皆さんにエールを送りましょう。どうぞ、よろしく願いいたします。

送付先 〒162-8624 新宿区山吹町10-1 ラポール日教済内 教職員共済生活協同組合 事業メディア部

※いただいたお手紙は教職員共済協のホームページにて紹介させていただきます。また、とりまとめて避難先へ送付させていただきます。

持つこと。さらに郷土の味を知ること、郷土愛も深まってくれば、と願っています」と話します。福浦小学校では、農作業体験で多くの地元野菜に親しみ、伝統的な献立でその野菜を食べることで郷土への理解も深まり、さらに世代間の交流で食文化だけではなく、郷土の遊びや礼儀までも教わ

ることができているようです。地域に根付いた大家族の暮らしを基に、郷土の味わいを食育活動に自然に取り入れていくさまに、日本の食生活の原風景を垣間見た一日でした。

- ・9月〜カボチャ、大豆 収穫
- ・10月〜サツマイモ、里芋、大豆収穫
- ・畑などは、近隣の農家から福浦小学校が借り、JAそつまの職員や農家の指導で作物を栽培しています。
- 食文化体験
  - ・7月〜親子夏祭り
  - ・野菜たっぷり春巻きや米粉お好み焼き、手づくりこんにやく作り
  - ・学年別に、地産地消の食材を使い、模擬店を出店
  - ・9月〜麻豆で手づくり石けん
  - ・11月〜浦ざと秋のうめえものまつり「もちつき、芋煮、焼きいも、ちゃんちゃん焼き
  - ・1月〜豆腐作り
  - ・2月〜米粉でお菓子づくり
- 世代間交流
  - ・昔遊びや、小刀を使った竹箸づくりを老人クラブの方から習っ
  - ・郷土食である太巻き、寿司「花ずし」などを、婦人会の方と一緒に習いながらつくる



竹を小刀で真剣に削る



みんなでいただきまーす

にぎりは、具も形も個数も自由。大きなおにぎり1個だけ、小さなのを3個、海苔を巻いたもの、白飯だけのおにぎり、ワカメ混ぜごはん、中の具も梅干し、しゃけ、肉そぼろなどなど。子どもたちに話を聞いてみると、「ごはん、大好き」「うちは8人家族だから、ごはんも8合炊いた」「じいちゃん、ばっちゃんの作る野菜はおいしいよ」などと元気な声が返ってきました。

ここでまた、福浦小学校の食育活動の特色が……。今日は、年に二回ある「手づくり弁当の日」、子どもたちが家からおにぎりをにぎって持ってくる日です。1〜3年生は家の人が炊いたごはんをにぎって持ってくる日です。1〜3年生は家の人が炊いたごはんをにぎって持ってくる日です。1〜3年生は家の人が炊いたごはんをにぎって持ってくる日です。

自分でもにぎったおにぎりとお待ちかねの芋煮ができました。ブルーシートの上に、縦割り班ごとに子どもたち、幼稚園児、保護者が車座になってのお昼ごはんのひととき。ここでまた、福浦小学校の食育活動の特色が……。今日は、年に二回ある「手づくり弁当の日」、子どもたちが家からおにぎりをにぎって持ってくる日です。1〜3年生は家の人が炊いたごはんをにぎって持ってくる日です。1〜3年生は家の人が炊いたごはんをにぎって持ってくる日です。

作物や周囲の人への感謝 食へ物で育つ郷土愛

楽しい芋煮会の後は、校庭で男の先生や保護者が朝から用意して焼き上げた焼きいもをお土産に。幼稚園児も安齋校長先生から1個ずつもらって、園へ帰りました。校長室に戻り、安齋校長先生にお話を伺いました。「私は、今年の春からお世話になっ

保護者の方にも聞いてみると、「子どもたちは、ばあちゃんこが、いちゃんこが多いですね」「よく働いてくれる子が多くて、お風呂の準備や茶碗洗いななどお手伝いもしてくれますよ」家でもよく食べるのは、豚汁、畑でとれた野菜の味噌汁、野菜の天ぷら、さんま焼きなど和食が多いです。取材して気がついたことは、芋煮をおかわりする子が多いこと。また、ブルーシートに上がる時には、ほとんどの子が運動靴を脱いできちんと揃えていることでした。野菜好きで食欲旺盛、しつげがしっかりできてきている元気な子が多く、うれしく感じました。



ワタシがにぎったおにぎり